

コロナ禍における大学生の学生生活に対する不安感とストレス

Anxiety and Stress about College Students' Student Life due to COVID-19

石川悦子

ISHIKAWA, Etsuko

キーワード：COVID-19、不安感、ストレス、オンライン授業

I 問題と目的

COVID-19の世界的な感染拡大は、大学生の生活にもさまざまな形で変化をもたらし、2020年度は、全国的に「オンライン授業元年」と言うべき年になった。この状況は2021年度に入っても変わらず、首都圏では2020年4月から2021年9月末の間に緊急事態宣言が4回発令される状況下、大学では一部対面授業を始めるもオンライン授業が継続された。COVID-19感染症は、これまでの災害とは違い、通学や対面授業をはじめ通常の学事そのものへの影響を与えるという点で、大学等の教育機関にとって未曾有の事態を経験することになった。新入生にとっては、入学式で他の学生と出会う経験もないままにオンライン授業に突入し、また、外出自粛の他、アルバイトや課外活動が減るなど、生活全体に大きな影響をもたらした。さらに、他県をまたぐ移動などにも制限がかかって、予定していた新生活拠点への転居や、また、帰省ができないなどさまざまな不自由を生じさせた。

文部科学省（2021）は、国立教育政策研究所及び大学等の協力を得て、大学生を対象に2021年3月5日～27日にWEB調査を実施し（有効回答数1,744名）、次のように報告している。2020年度後期に履修した授業の内、「オンラインがほとんど・すべてだった（80～100%）」が全体の59.6%で、「オンラインが多かった（50～80%）」が19.9%であった。オンライン授業の悪かった点としては（複数回答）、「友人などと一緒に授業を受けられず、寂しい」が53.3%、「レポートなどの課題が多かった」が49.7%、「身体的疲労を感じた」が44.0%、「質問等、相互のやりとりの機会がない・少ない」が43.9%、「対面授業よりも理解しにくい」が42.7%であった。一方、オンライン授業の良かった点としては、「自分で選んだ場所で授業を受けられた」が79.3%、「自分のペースで

学修できた」が66.1%であった。アルバイトに関しては、2021年1～2月のアルバイト状況は、「収入がなくなった」と「大きく下がった（50%未満になった）」を合わせると20.6%、「やや下がった（50～90%未満になった）」が29.1%で、その理由は勤務先の時短営業等の影響が71.7%であった。また、国などの経済支援については、令和2年度に「支援を受けていない」学生は49.9%であり、その理由として73.6%の学生が「必要がないため」と回答し、14.9%は「自分が活用できる支援策がよくわからなかった」等であった。次に、悩みについては、37.9%の学生が「授業に関すること」（成績が芳しくない、授業内容が面白くない、授業形態[オンライン授業などを含む]が不満であるため、等）であり、さらに、「将来のキャリアに関すること」（卒後のキャリアの見通しが立てられない、これまで考えていたキャリアプランの変更が必要になったため、など）であった。退学・休学に関しては、その前の年と比べてとくに増加している傾向はみられなかった。これらの結果を踏まえて、授業の実施方針については学生への丁寧な説明を含めた学生に寄り添った対応、経済的支援策の積極的な情報発信、さらに、学生が孤独・孤立に陥ることがないように学内の相談体制の整備や充実を図ることが提唱された。

この他、複数の大学において、コロナ禍における大学生のストレスに関する調査報告がなされている。橋本（2021）は、大学生を対象にストレスサーに係る43項目のWEBアンケート調査を2020年6月に行った結果、135名分のデータから、「コロナ禍に伴うあらゆる出来事や制約がストレスサーになっているが、活動中止などのライフイベントよりも、日々の学業や生活で生じているデイリーハズルズの方が、ストレス反応と抑うつと関連していた」と、「コーピングやサポートがストレスサーの悪影響を緩和する効果は示されなかった」と、コロナ禍ストレスの多様性を指摘している。また、伊藤・栗本・白水（2020）は、2020年4～5月に学内全学生を

対象として、大学生生活、ストレス、心配なことに関するオンライン調査を行い、1,476名の回答から次のように報告している。「大学を知らないままに自粛生活に突入した学部1年生が、大学生生活についての不安や戸惑いを強く感じていること、さらには、一人で生活している下宿性が大きなストレスに耐えていることが見えてきた」、「具体的な心配事からも、勉学や将来への不安だけでなく、コロナ禍による収入面への不安や自粛生活でのストレスを抱える学生も多さも明らかになった」。その上で、不安やストレスに関する心理的サポートだけでなく、収入面やネット環境の整備などの物理的サポートや、大学生活全般について情報面のサポートについて対策を考える必要があることを指摘している。さらに、浅川・嶋田(2021)は、履修学生93名を対象に2020年7月にWEB調査を実施した結果、生活習慣に関わる大きな変化とともに、コロナ禍が学生の日頃のコミュニケーションに与えた影響が非常に大きいことを報告している。すなわち、「か細い」コミュニケーションに留まっていることと、また、大学に期待していたこと(「サークル・部活」、「友人との出会いと活動」、「北海道・札幌を味わいたい」、「行身体験」)の大半が諦めに代わっていたと実態を明らかにした。広瀬ら(2020)は、理学療法科学部生の学生生活に及ぼす不安感等について調査し、実習について3年生が他の学年に比べて不安を強く抱えていることを報告している。加えて、杉浦(2021)は、オンライン授業と学生生活に関するアンケートを実施し(2020年9月)、通信環境が悪い学生ほど、授業満足度が低く、心身の不調を深刻に自覚しており、オンライン授業の継続に否定的だったことを示した。その上で、経済格差が教育格差につながりやすいことを指摘した。泰松・石黒・大村(2021)は、コロナ禍により始めたオンライン授業にアクティブラーニングを取り入れ一定の成果を確認した上で、「恒久的にオンライン授業を展開するという考え方が出てきた」ことを報告している。

以上のように、各大学で学生の入構制限やオンライン授業など諸々の対応が展開される中で、学生がさまざまな影響を受けていることが示唆された。通常の授業や課外活動、さらに、資格取得のための実習などにも影響が及び、将来のキャリアプランに対する不安や悩みへつながっている実態もみえてきた。本研究では、学生が抱える学生生活に対する不安感やストレス要因を調査することにより、長引くコロナ禍における支援や、また、アフターコロナを視野にいれた指導や支援を考えることを目的とする。

II 方法

調査時期：第1回2020年10月-11月、第2回2021年6月-7月、2回ともに同じ調査項目とした。

調査内容：調査項目は、藤井(1998)を参照し、山田(2006)の大学生生活不安尺度の項目を一部改変した大学生生活不安尺度を基本として、さらに、冨永(2020)のコロナ禍におけるところとからだのチェックリストを参考にして、コロナ禍における不安感やストレスに関する計33項目で構成した。回答は、「とても当てはまる」、「当てはまる」、「どちらともいえない」、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」の5件法(順に5点-1点)で実施した。この大学生生活不安尺度については、本学では毎年1回、全学生に向けて実施してきたものであるが(石川・松原・南, 2020)、今回はコロナ禍の学生生活に鑑みて項目を一部調整して実施した。またこの他に、学年や性別、個別相談希望に関する設問や、「保育実習・教育実習に不安を感じている理由」(自由記述回答)を加えた。

調査方法：学生相談室が主体となり学部学生対象にWEB調査を実施した。2020年度は368人に配信し158名(42.9%)、1年生68名、2年生35名、3年生21名、4年生34名の回答があり、2021年度は396名に配信し145名(36.6%)、1年生75名、2年生34名、3年生26名、4年生10名が回答した。

倫理的配慮：回答に先立ち、回答内容は成績評価に一切影響しないこと、情報を厳重に保護し個人が特定されることはないこと、自由意思で回答するよう明記して進めた。

III 結果と考察

(1) 因子分析結果

不安感やストレスに関する33項目について、主因子法、プロマックス回転による因子分析を行った。固有値1を基本とし、初期の固有値の減衰状況と因子の解釈可能性から7因子を抽出した(表1)。7因子の累積説明率は62.75%であった。なお、全体の傾向を検討するために、第1回と第2回の結果を合算して扱った。第1因子は、「必修科目の成績が不可であったらどうしようと心配である」、「履修登録した授業の単位がきちんともらえるかどうか心配である」、「テストを受ける時、悪い点を取ってしまうのではないかと心配になる」、「4年間で卒業できるかどうか、不安である」、「卒業論文、卒業研究がうまくできるかどうか不安である」という5項目の負荷量が高く【学業成績不安】と命名した。第2因子は、「大学の先生と話をする時、とても緊張する」、「授業やゼミで発表する時、声が震えることがある」、「授業中、何か

しなければならないとき、ミスをするのではないかと不安である」、「友達と一緒に何かをしなければならないとき、上手く協力できるか不安である」の4項目の負荷量が高く【学内対人不安】と命名した。第3因子は、「私は現在在学している大学にかなり満足している」、「大学を退学したいと思うことがある」、「入学した学部・学科が自分にあっていないような気がして不安である」、「本当に信頼できる教授にめぐりあえた」の4項目の負荷量が高く、【大学帰属感】と命名した。なお、第3因子に関しては、他の項目とは内容が異なるため、逆転項目として計算しその後の分析対象とした。第4因子は、「むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かっとしたりする」、「最近なかなか、眠れないことがある」、「頭痛や腹痛があったり、体調が悪かったりする」、「提出課題に追われ、孤独感や疲労感が強い」からなり【体調不安】とした。第5因子は、「親の仕事や経済状況の不安を受けて、今後の学生生活に不安を感じている」、「アルバイトが減り収入が減ることで不安を感じている」、「1ヶ月の生活費が足りるかどうか心配である」の3項目からなり、【生活経済不安】と命名した。第6因子は、「遠隔授業で、自分が授業内容を理解しているのか不安になることがある」、「授業中、先生が言っている内容が分からず、不安になることがある」、「他の学生がレポートにどのように対応しているのかわからず不安を感じている」、「遠隔授業でうまく行かない時に、担当教員に質問しにくいと感じることがある」の4項目からなり【授業不安】と命名した。第7因子は、「外出の制限や友達とふれあって遊ぶことができない不自由さを感じている」、「サークル活動やイベントの中止や縮小など予定変更に伴うストレスを感じている」、「新型コロナウイルスに感染するのではないかと不安である」の3項目からなり【生活制限ストレス】と命名した。第1因子から第6因子までの α 係数は.700以上で十分な信頼性があるといえるが、第7因子は.589でやや低めであった。しかし、本調査にとって重要な項目であり採用することとした。因子間相関については、表1に示した通りである。

(2) 学年、性別、調査年度間の得点の比較

学年間の差をみるために、各因子にまとまった項目の平均点を用いて、学年を独立変数として一元配置分散分析を行った(表2)。これにより、【学業成績不安】、【学内対人不安】、【体調不安】、【授業不安】の4つの因子において、1年生が高いという結果を得た(.001)。この結果から、入学直後からオンライン授業が続き、学生間の交流や教場の雰囲気や体験しないままに大学の授業に対応し始め、その中で、孤独感を含めて授業成績や授業内容への理解等に1年生が他の学年よりも強く不安を抱

いていることが明らかになったと推察される。また、【大学帰属感】と【生活経済不安】については、全学年通じて概ね2点台であり学年間の差はみられなかった。さらに、【生活制限ストレス】については、各学年ともに3点以上であり、外出制限によるストレスやコロナ感染にしているのではないかと不安感という不安感は、全学年に共通して比較的高いという結果を得た。

加えて、性別と調査年度による得点比較を行うためt検定を実施したところ(表3)、男女間では、【生活経済不安】において女子の方が高い(.05)という結果を得た。性別については、男性40名、女性261名と回答者数に大きな差があるため、ここでは傾向をみるに留まるが、家庭経済やアルバイト収入の減額により、生活不安を女子学生の方がやや強く感じているという結果となった。ただしその得点は男女ともに2点台であり、全体としては高得点とは言えない。

また、調査年度による比較では(表3)、2021年度の方が、【学業成績不安】、【体調不安】、【生活制限ストレス】において、2020年度に比べて高い結果となった。2020年度は調査時期が秋学期の10-11月であり、2021年度は春学期の6-7月であるという影響、すなわち、2021年度の調査時期は、新入生がまだ大学に慣れていない時期であったという可能性もある。この大学生活のためのアンケートは、例年は春学期に実施してきたが(石川ら、前掲)、2020年度は授業開始時期の遅れや春学期はほとんど大学構内に入れなかったという事情に鑑み、対面授業を一部開始した秋学期に実施した。以上のようなさまざまな条件を考慮する必要はあるが、オンライン授業の長期化、大学への入構制限、外出自粛、サークル活動などの禁止などの状況が長引くなか、学業不安や体調不安、生活制限ストレスが前年度よりも2021年度はやや高まっていると推察することができる。

(3) 各項目についての学年間比較

学生の実態をもう少し詳しく見るための、全項目について学年比較を行いその結果を示した(表4)。その結果を順にみていくと、「3. 最近なかなか眠れないことがある」は1年生>4年生であった。また、「5. 提出課題に追われ孤独感や疲労感が強い」について、1, 2年生の方が3, 4年生よりも高得点であった。さらに、「15. 遠隔授業で、自分が授業内容を理解しているのか不安になることがある」、「16. 保育実習・教育実習に不安を感じている」、「18. 4年間で卒業できるかどうか不安である」、「19. 留年したらどうしようと気になる」、の各項目では1年生が他学年に比べて高得点であった(.001)。また、授業に関する項目で、「23. 授業中、先生が言っている内容が分からず不安になることが

表1 大学生の不安尺度及びコロナ禍におけるストレス項目についての因子分析結果

	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7
第1因子 学業成績不安 ($\alpha=.855$)							
必修科目の成績が不可であったら、どうしようと心配である	.961	-.015	-.017	-.012	.029	-.081	-.015
履修登録した授業の単位がきちんともらえるかどうか心配である	.930	-.148	.029	.014	.006	-.036	-.003
テストを受ける時、悪い点を取ってしまうのではないかと心配になる	.665	.110	-.090	.039	-.059	.122	.006
4年間で卒業できるかどうか、不安である	.617	-.044	.080	.047	.060	.059	-.052
卒業論文、卒業研究がうまくできるかどうか、不安である	.409	.135	-.069	-.093	.107	.057	.033
第2因子 学内対人不安 ($\alpha=.791$)							
大学の先生と話をする時、とても緊張する	-.189	.729	-.013	.051	0.01	.062	.049
授業やゼミで発表する時、声が震えることがある	.125	.721	.000	-.052	-.065	-.123	-.035
授業中、何かしなければならぬとき、ミスをするのではないかと不安である	.217	.673	-.093	.003	-.018	.051	.038
友達と一緒に何かをしなければならぬとき、上手く協力できるか不安である	-.055	.615	.098	-.029	.041	.114	-.092
第3因子 大学帰属感 ($\alpha=.735$)							
私は現在在学している大学にかなり満足している	.137	.027	-.730	.068	-.060	-.022	-.035
大学を退学したいと思うことがある	-.014	-.016	.660	.175	0.04	-.067	-.033
入学した学部・学科が自分にあっていないような気がして不安である	.062	.159	.625	.001	.032	-.057	-.006
本当に信頼できる教授にめぐりあえた	-.108	.067	-.562	.094	.165	-.114	.034
第4因子 体調不安 ($\alpha=.752$)							
むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かっとしたりする	-.037	-.056	-.026	.769	-.055	-.006	.008
最近なかなか、眠れないことがある	.068	-.061	-.071	.706	-.021	.057	-.009
頭痛や腹痛があったり、体調が悪かったりする	-.044	.169	.082	.592	.003	-.122	.059
提出課題に追われ、孤独感や疲労感が強い	.122	-.019	.075	.392	.057	.222	-.010
第5因子 生活経済不安 ($\alpha=.702$)							
親の仕事や経済状況の不安を受けて、今後の学生生活に不安を感じている	.057	.113	-.090	.011	.676	-.086	-.085
アルバイトが減り収入が減ることで不安を感じている	.014	-.080	.045	-.100	.667	.033	.094
1ヶ月の生活費が足りるかどうか、心配である	.043	-.070	.021	.018	0.66	.045	.015
第6因子 授業不安 ($\alpha=.789$)							
遠隔授業で自分が授業内容を理解しているのか不安になることがある	.077	-.031	-.055	-.013	-.046	.836	-.003
授業中、先生が言っている内容が分からず、不安になることがある	.117	.033	.051	.066	.055	.615	-.055
他の学生がレポートにどのように対応しているのかわからず不安を感じている	.304	.058	.064	-.069	-.073	.442	.108
遠隔授業でうまく行かない時に、担当教員に質問しにくいと感じることがある	-.003	.163	.067	-.016	.060	.375	.027
第7因子 生活制限ストレス ($\alpha=.589$)							
外出の制限や友達とふれあって遊ぶことができない不自由さを感じている	.035	-.038	.081	-.050	-.038	-.024	.880
サークル活動やイベントの中止や縮小など予定変更に伴うストレスを感じている	-.156	-.047	-.174	.089	.089	.128	.448
新型コロナウイルスに感染するのではないかと不安である。	.180	.117	.002	.084	.003	-.124	.391
因子間相関							
F1		.602	.275	.496	.282	.666	.269
F2			.323	.472	.176	.526	.207
F3				.468	.269	.247	-.008
F4					.390	.515	.332
F5						.243	.223
F6							.351

表2 各因子の学年別得点比較

	1年生(143)	2年生(68)	3年生(47)	4年生(45)	分散分析 F値	多重比較
学業成績不安	3.79(.73)	3.38(.97)	3.16(1.08)	2.82(.95)	18.65***	1>2, 3>4
学内対人不安	3.06(.89)	2.85(.84)	2.77(.81)	2.51(.97)	6.75***	1>4
大学帰属感	2.50(.67)	2.54(.70)	2.28(.72)	2.19(.72)	3.01	
体調不安	2.97(.90)	2.88(.83)	2.54(.91)	2.44(.84)	6.61***	1>3, 4
生活経済不安	2.41(.87)	2.47(.98)	2.48(1.07)	2.49(.98)	0.05	
授業不安	3.38(.73)	3.01(.82)	2.94(.96)	2.79(.83)	12.97***	1>2, 3, 4
生活制限ストレス	3.15(.90)	3.07(.87)	3.17(.91)	3.03(1.02)	0.44	

*** $p<.001$ 多重比較 1:1年生 2:2年生 3:3年生 4:4年生

表3 各因子の調査年度と性別による得点比較

	性別		t値	調査年度		t値
	男性(40) M(SD)	女性(261) M(SD)		2020(158)	2021(145)	
学業成績不安	3.65(.98)	3.42(.94)	-1.43	3.35(.95)	< 3.57(.92)	-2.01*
学内対人不安	2.80(.81)	2.89(.91)	0.62	2.84(.92)	2.94(.87)	-1.01
大学帰属感	2.33(.82)	2.44(.69)	0.97	2.38(.72)	2.48(.69)	-1.13
体調不安	2.69(.94)	2.81(.89)	0.78	2.70(.88)	< 2.91(.90)	5.06*
生活経済不安	2.20(.94)	< 2.48(.94)	1.70*	2.42(.86)	2.48(1.02)	-0.58
授業不安	3.16(.79)	3.13(.84)	-0.24	3.09(.86)	3.19(.80)	-1.06
生活制限ストレス	3.01(1.10)	3.13(.88)	0.81	2.99(.93)	< 3.25(.87)	-2.48**

* $p<.05$ ** $p<.01$

ある」、「26. 授業中、何かしなければならぬとき、ミスをするのではないかと不安である」、「27. 必修科目の成績が『不可』であったら、どうしようと心配である」、「28. テストを受けていて、分からない問題に出会うと頭の中が真っ白になってしまう」、「29. 履修登録した授業の単位がきちんともらえるかどうか心配である」、「32. テストを受ける時、悪い点を取ってしまうのではないかと心配になる」についても、1, 2年生が3, 4年生よりも高得点であった (.001)。全33問の設問のなかで唯一、「36. 本当に信頼できる教授にめぐりあえた」については、学年が上がるにつれて得点が高くなるという結果を得た (.001)。これに関しては、大学での経験を積んだ上で得られる実感であると言えよう。この他に、学年間の差はないが全学年共通して3.3点以上の項目は、「8. 外出の制限や友達とふれあって遊ぶことができない不自由さを感じている」(レンジ3.38-3.57)と「25. 将来、よい就職ができるかどうか不安である」

(レンジ3.42-3.66)、「31. 卒業論文、卒業研究がうまくできるかどうか、不安である」(レンジ3.69-3.93)の3項目であり、この内容は、どの学年にも共通した不安要素であるといえる。

最後に、2020年度と2021年度の各項目の学年によるばらつきをみるために、表4で学年間に差がみられた項目について分散分析を実施したところ、図1と図2に示すように年度間で同じような得点傾向がみられた。紙幅の関係でここに全て示すことができないが、他の項目についても同傾向がみられた。図2に示したように、保育実習や教育実習については、これから実習を迎える学年に比べて、実習がほぼ全て終了した4年生の得点が低いことは表3の結果とも重なるところである。また、1, 2年生が抱く保育実習・教育実習等への不安の理由について、自由記述内容 (No17) をみると、「もし自分が感染していたら、実習先の先生や子ども達に病気をうつしてしまわないか」、「1年の時に体験ができていないので不

表4 各項目の学年間比較結果

	1年生	2年生	3年生	4年生	分散分析 F値	多重比較
3. 最近なかなか、眠れないことがある	2.97(1.18)	2.75(1.19)	2.62(1.29)	2.33(1.24)	3.44*	1>4
4. むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かつしたりする	2.71(1.12)	2.68(.98)	2.53(1.21)	2.24(1.05)	2.248	
5. 提出課題に追われ孤独感や疲労感が強い	3.66(1.11)	3.51(1.04)	2.83(1.22)	2.67(1.07)	13.37***	1, 2>3, 4
6. 頭痛や腹痛があったり、体調が悪かったりする	2.52(1.22)	2.57(1.29)	2.19(1.19)	2.53(1.20)	1.09	
7. 新型コロナウイルスに感染するのではないかと不安である。	3.11(1.08)	3.06(1.24)	3.13(1.15)	2.78(1.13)	1.079	
8. 外出の制限や友達とふれあって遊ぶことができない不自由さを感じている	3.57(1.24)	3.38(1.12)	3.57(1.38)	3.56(1.24)	0.410	
9. サークル活動やイベントの中止や縮小など予定変更に伴うストレスを感じている	2.76(1.25)	2.78(1.28)	2.81(1.36)	2.76(1.51)	0.022	
10. 親の仕事や経済状況の不安を受けて、今後の学生生活に不安を感じている	2.48(1.07)	2.53(1.18)	2.45(1.28)	2.24(.96)	0.664	
11. アルバイトが減り収入が減ることで不安を感じている	2.50(1.17)	2.79(1.47)	2.87(1.24)	2.91(1.35)	2.002	
12. 遠隔授業でうまく行かない時に、担当教員に質問しにくいと感じることがある	2.73(.99)	2.53(.92)	2.74(1.09)	2.51(1.06)	1.086	
14. 他の学生がレポートにどのように対応しているのかわからず不安を感じている	3.57(1.04)	3.21(1.11)	3.11(1.29)	3.00(1.15)	4.49**	1>4
15. 遠隔授業で、自分が授業内容を理解しているのか不安になることがある	3.90(.94)	3.49(1.06)	3.34(1.17)	3.18(1.13)	7.79***	1>2, 3, 4
16. 保育実習・教育実習に不安を感じている	3.16(.98)	3.53(.92)	3.60(1.04)	2.33(1.19)	15.89***	1, 2>3, 4
18. 4年間で卒業できるかどうか不安である	3.39(1.15)	2.76(1.22)	2.45(1.10)	2.04(.98)	20.25***	1>2, 3>4
19. 留年したらどうしようと気になる	3.38(1.20)	2.65(1.26)	2.51(1.35)	2.00(1.07)	18.00***	1>2, 3>4
20. 万一事故にあったり病気をしたらどうしようと心配になる	2.86(1.15)	2.85(1.14)	2.79(1.32)	2.42(1.06)	1.735	
21. 友達と一緒に何かをしなければならないとき、上手く協力できるか不安である	2.97(1.15)	2.90(1.09)	2.68(1.14)	2.64(1.30)	1.301	
22. 1ヶ月の生活費が足りるかどうか、心配である	2.25(1.13)	2.09(1.10)	2.11(1.22)	2.31(1.28)	0.545	
23. 授業中、先生が言っている内容が分からず不安になることがある	3.31(1.02)	2.81(.95)	2.57(1.10)	2.49(.94)	12.045***	1>2, 3, 4
24. 大学の先生と話す時とても緊張する	2.73(1.07)	2.41(.98)	2.34(1.05)	2.13(1.08)	4.70**	1>4
25. 将来よい就職ができるかどうか不安である	3.60(1.06)	3.66(1.06)	3.57(1.17)	3.42(1.29)	0.441	
26. 授業中、何かしなければならないとき、ミスをするのではないかと不安である	3.44(1.08)	3.09(1.10)	3.04(1.27)	2.53(1.20)	7.77***	1>4
27. 必修科目の成績が「不可」であったら、どうしようと心配である	3.81(1.02)	3.41(1.16)	3.11(1.40)	2.58(1.44)	13.87***	1>2, 3>4
28. テストを受けていて、分からない問題に出会うと頭の中が真っ白になってしまう	3.45(1.07)	3.18(.98)	2.96(1.27)	2.42(1.08)	10.83***	1>3, 1, 2>4
29. 履修登録した授業の単位がきちんともらえるかどうか心配である	3.75(1.02)	3.43(1.18)	3.21(1.33)	2.71(1.25)	10.14***	1>3, 4 2>4
30. 授業やゼミで発表する時、声が震えることがある	3.10(1.15)	3.01(1.13)	3.02(1.21)	2.73(1.19)	1.131	
31. 卒業論文、卒業研究がうまくできるかどうか、不安である	3.89(1.07)	3.69(1.15)	3.77(1.27)	3.93(1.01)	0.664	
32. テストを受ける時、悪い点を取ってしまうのではないかと心配になる	4.10(.77)	3.59(1.12)	3.26(1.36)	2.82(1.09)	21.79***	1>2, 3>4
33. 入学した学部・学科が自分にあっていないような気がして不安である	2.38(.98)	2.43(1.03)	2.32(1.09)	2.00(.95)	1.976	
34. 大学を退学したいと思うことがある	1.95(1.04)	2.09(1.08)	1.77(.98)	1.71(.99)	1.612	
35. 私は現在在学している大学にかなり満足している	3.54(.72)	3.32(.78)	3.57(.83)	3.44(.99)	1.386	
36. 本当に信頼できる教授にめぐりあえた	2.80(.87)	3.03(.90)	3.40(.92)	3.49(.92)	9.77***	4, 3>1 4>2
37. 大学内にもっと学業面や精神面の支えが欲しい	2.87(.72)	2.69(.74)	2.83(.89)	2.60(.84)	1.890	

*** $p<.001$ ※多重比較 1:1年生 2:2年生 3:3年生 4:4年生

※通し番号の欠番は学年、性別、個別相談希望等に係る項目及び自由記述回答の項目である

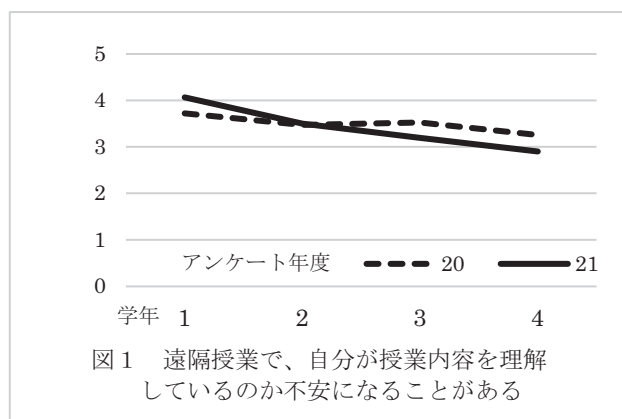


図1 遠隔授業で、自分が授業内容を理解しているのか不安になることがある

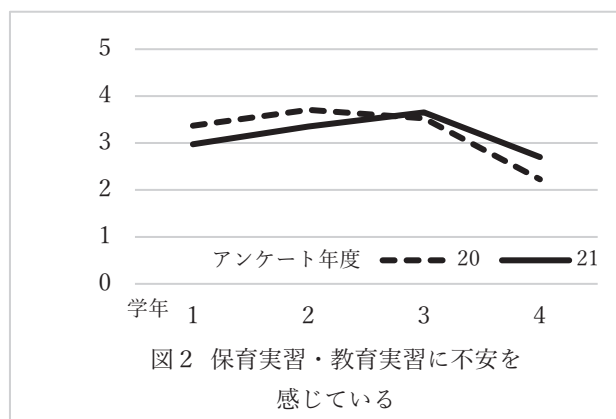


図2 保育実習・教育実習に不安を感じている

安です」、「学校に行く回数が少ないなかで、実習までの準備をしなければならないので不安になることがある」、「子どもと触れ合う機会が少なかったから」、「この状態で2週間の実習をやり切れると思えないので不安」など計60件の記入があり、事前の体験不足に拠る不安感が示されていた。この内容に関しては、さらに分析を進めた結果を教職員間で共有し、よりきめ細やかな対応や指導につなげる必要があると思われる。

IV 総合考察と今後の課題

コロナ禍で大学キャンパスへの入構制限や対面授業への影響が1年半以上続くなか、本調査を2回実施した結果、2020年度よりも2021年度の方が、【学業成績不安】、

【体調不良】、【生活制限不安】がやや高まっていることが明らかになった。また、特に1年生は、他学年に比べて、オンライン授業における授業内容の理解に関する不安をはじめ、授業に関する不安が高いことが見えてきた。また、保育実習等への不安については、自由記述内容から、実習に行かれるか否かの心配もあるが、事前の体験学修が通常通りにはできないことや、実習中のCOVID-19感染に係る不安等が書き込まれていた。これらの心配や不安は当然のことであり、事前の体験学修等については、体験先への派遣人数を細かく分散する他、時間を短縮するなど工夫をして、現場体験の機会を確保し、学生達の不安を少しでも取り除く工夫が重要である。また、本学では、実習関連科目やゼミなどは、2020年度秋学期から徐々に対面で実施するようにしたが、それでも例年のように教員と学生との人間関係を築くことは難しい面があった。学生の安心と安全を守りながら、例えオンラインが継続されるなかでもゼミ教員による個別面談を行うなど、学生一人一人に寄り添った対応の必要性を強く感じる。その上で、新入生や新2年生の大学生活や将来へのキャリアプランについてイメージを広げるために

は、3、4年生との交流の機会が持てるような仕組みづくりや工夫も必要である。

また、卒業論文作成や就職に関する不安は、全学年に共通し高得点であった。このことを学内で十分に共有し、例えば、オンラインによる就職採用説明会への参加の仕方への指導、また、卒業研究の個別指導などについて例年以上に丁寧に細やかに対応することが求められる。

さらに、経済不安については、前掲の先行研究によれば、「自分が活用できる支援策がよくわからなかった」等の実態も明らかになった。これらについては公的な修学支援制度や学生支援緊急給付金、あるいは大学独自の緊急支援金などのさまざまな制度の情報が、全学生へ十分に届いたのか、また、その申込み方法は学生にとってアクセスしやすいものであったか、などは十分に点検する必要がある。加えて、杉浦（前掲）にあるように、通信環境が悪い学生ほどオンライン授業への授業満足度が低く、心身の不調を深刻に自覚しているという結果は注目すべきである。本学でも2020年度の早い時期から無料Wi-Fiルーターの貸し出し制度を作り、遠隔受講環境の整備に取り組んでいるが、今後も状況を見極めつつ継続することが必要と思われる。

最後に、現在文部科学省では、教室内のソーシャルディスタンスについて、最低1メートルを推奨している（文部科学省，2021）。これを実現するためには、教室内の収容人数の削減継続を含め、今後も注意深くCOVID-19の感染動向を見極める必要があり、泰松ら（前掲）が指摘するように、これを機に、科目によってはオンライン授業を恒久的に続けるという選択もあり得る。従前よりオンデマンド授業を取り入れてきた大学は複数ある。近年、国は、小学校・中学校に対してGIGAスクール構想（Global and Innovation Gateway for All）を進めており、ICT教育の進展は時代の要請といえる。感染対策を十分に施した環境を整備しつつ、学生の学びをはじめ大学生活における豊かな体験をどのように保証してい

くか、引き続き知恵を絞る必要がある。

【文献】

- 浅川和幸・島田嘉寛 (2021). 「コロナ禍」における大学生生活の始まり：全学教育の学生はどのように生活を築こうとしたのか. 北海道大学教職課程年報11, 1-25.
- 藤井義久 (1998). 大学生生活不安尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討. 心理学研究68(6), 441-448.
- 橋本剛 (2021). コロナ禍初期における大学生の心理社会的ストレスに関する探索的検討：社会規範としての援助要請スタイルの効果も含めて. 静岡大学人文社会科学部人文論集71(2), 15-34. (JSPS 科研費 JP19K03190助成研究)
- 広瀬環・屋嘉比章紘・小野田公・久保晃 (2020). 新型コロナウイルス感染症による活動制限が理学療法科学科学部生における大学生生活の不安感に及ぼす影響—授業, 臨床実習, 就職活動に着目した報告—. 理学療法科学 35(6), 911-915.
- 石川悦子・松原絵美・南舞 (2020). 学生生活のためのアンケートを活用した学生相談体制の充実へ向けて. こども教育宝仙大学紀要 Vol. 11, 61-66.
- 伊藤美奈子・栗本美百合・白水倫生 (2020). コロナ禍による大学生のストレスと大学生活への意識. 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科年報第36号, 25-36.
- 文部科学省高等教育局 (2021). 新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等の学生生活に関する調査等の結果について(令和3年5月25日). (https://www.mext.go.jp/content/20210608-mxt_koutou01-000015852_9.pdf (2021年8月1日閲覧))
- 文部科学省 (2021). 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2021.4.28 Ver.6) 2021.5.28 一部修正
https://www.mext.go.jp/content/20210514-mxt_kouhou01-000007426_1.pdf (2021年10月1日閲覧))
- 杉浦郁子・小野奈々・米田幸弘 (2021). コロナ禍におけるオンライン学習と学生生活：和光大生を対象にした調査結果の分析. 和光大学現代人間学部紀要 (14), 5-26.
- 富永良喜 (2020). ストレスマネジメントとトラウマ ver. 02 ところとからだのチェックリスト. <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/110148.pdf> (2020年6月閲覧))
- 山田ゆかり (2006). 大学新入生における適応感の検討. 名古屋文理大学紀要第6号, 29-36.
- 泰松範行・石黒順子・大村恵子 (2021). 新型コロナ(COVID-19) 禍後の新大学生生活をデザインする必要性：オンライン授業に関する考察を踏まえて. 東洋学園大学紀要(29), 194-209.